

● 北総鉄道2019年度決算

営業収益177億円、当期純利益は26億円

輸送人員は39,130千人と対前期比0.7%増

有利子負債は677億円、累積赤字も未だ44億円と依然巨額

北 総 鉄 道 決 算 に つ い て

(1) 2019年度決算について <表①~④>

当期におけるわが国経済は、雇用、所得環境の改善が続くなか、緩やかな回復基調で推移しましたが、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響などにより、先行きは依然不透明な状況にあります。

当社線沿線人口は、2期線（京成高砂～新鎌ヶ谷）においては、秋山、東松戸周辺の住宅開発が堅調であったことから、前年同期に比べ約700人の増加となりました。千葉ニュータウンエリアにおいては、印西牧の原地区を中心に戸建て住宅の入居が進んだことにより、約1,800人の増加となりました。

このような状況のなか、お客様により安全・安心にご利用いただくために、2018年度から自動列車停止装置の改良工事（C-A-T-S）及び列車無線のデジタル化工事に着手しております。

また、開業から40年以上が経ち、施設・設備の老朽化対策として、2017年度から実施しているリフレッシュ工事も引き続き推進しております。

一方、需要確保への取り組みについては、ZOZOチャンピオンシップゴルフ大会での広告貸切列車運行など各種イベントの開催・協力や沿線への入居促進のため、「子育てにやさしい北総沿線」をPRする冊子を発行したほか、10月にはダイヤ修正を実施し、お客様の利便性向上を図り、接客サービスの向上運動などを引き続き積極的に展開して業績の向上に努めました。

その結果、定期外旅客は、沿線人口が増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、対前期比150千人、1.3%減の11,814千人となりました。区間別に見ますと、千葉ニュータウン発着は56千人、0.8%の減、2期線内相互間では108千人、2.1%の減となりました。

定期旅客は、沿線人口の増加が寄与し、対前期比414千人、1.5%増の27,316千人となりました。区間別に見ますと、千葉ニュータウン発着は181千人、1.1%の増、2期線内相互間は209千人、2.1%の増となりました。

以上により、当期の輸送人員は対前期比264千人、0.7%増の39,130千人となりました。

表① 千葉ニュータウンの入居戸数 (単位：戸)

	入居戸数	差(対前年)
2017年度	1,062	△143
2018年度	1,100	38
2019年度	1,122	22

表② 輸送人員と旅客運輸収入

		2019年度	前年比
輸 送 人 員	定期外	千人 11,814	% △1.3
	定期	27,316	1.5
	合計	39,130	0.7
旅客運輸収入計		百万円 12,677	% 0.5

当期の営業収益は、前期に比べ9百万円、0.1%の増収となる177億4千8百万円となりました。旅客運輸収入については、輸送人員の増加を受け、対前期比6千6百万円、0.5%の増収となる126億7千7百万円となりました。

営業費については、リース車両の買取による減価償却費の増などにより、前期に比べて1億3千5百万円、1.0%の増となる135億8千8百万円となりました。

以上により、営業利益は41億6千万円と前期に比べて1億2千6百万円、2.9%の減益となりました。

また、営業外費用において独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構への支払利息が減少しましたが、営業利益の減により経常利益は前期に比べて9千3百万円、2.4%減益の37億3千9百万円となりました。

これから法人税等を差し引いた当期純利益は、26億1千8百万円と前期に比べ3千3百万円、1.3%の減益となりました。

以上の結果、当期末の繰越損失は、44億1千4百万円、有利子負債は677億4千万円と、依然として厳しい経営状況に変わりはありません。

引き続き当社の使命である鉄道事業を安定的に継続するため、お客様により安全、安心に、より快適・便利にご利用いただくための設備投資などを進めるとともに、更なる経費節減や増収対策に積極的に取り組み、より一層の経営健全化を図ってまいります。

表③ 比較損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度	2018年度	差	増減率 (%)
営業収益	17,748	17,739	9	0.1
営業費用	13,588	13,452	135	1.0
営業利益	4,160	4,286	△126	△2.9
営業外損益	△421	△454	32	7.2
経常利益	3,739	3,832	△93	△2.4
当期純利益	2,618	2,652	△33	△1.3
翌期繰越損失	4,414	7,032	△2,618	△37.2

表④ 貸借対照表

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
	百万円		百万円
資産の部		負債の部	
流動資産	14,356	流動負債	10,196
固定資産	84,053	固定負債	67,727
		負債の部合計	77,924
		純資産の部	
		株主資本	20,485
		資本金	24,900
		利益剰余金	△4,414
		純資産の部合計	20,485
資産の部合計	98,410	負債及び純資産の部合計	98,410

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。